

# 対話システム研究の10年を振り返って：これまでとこれから

## Dialogue Systems Research in the Past Decade: Overview and Outlook

中野 幹生  
Mikio Nakano

(株) ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン  
Honda Research Institute Japan Co., Ltd.

**概要:** 対話システムシンポジウムは今回で10周年を迎える。第1回の対話システムシンポジウムは、国際会議 SIGDIAL が東京で開催された2010年に、今回と同じ早稲田大学で開催された。その後毎年開催され、常に多くの参加者を集めて来た。

この10年間、対話システムの研究開発は大きく進展した。対話システムが機械と人間のインタフェースとして有望であることが認知され、スマートフォン上の音声対話アシスタント、AIスピーカー、テキストチャットボットなどが開発された。その結果、多くの人が対話システムを利用するようになった。また対話システムを作るためのツールも数多く作られ、対話システム開発の裾野が広がった。

これに伴い、研究者の数も増え、発表論文の数も大きく増えた。特に深層学習を用いた研究が増加した。また、様々なチャレンジやコンペティションが開催されてきた。これらの研究により、商用システムは今後ますます進化していくと考えられる。しかし、対話システムが日常的に使われるようになるにはまだ様々な課題が残されており、研究が十分行われていない分野も多い。

本講演では、第一線の研究開発者へのアンケートの結果を踏まえ、この10年の対話システムの研究開発の進展を振り返るとともに、今後の展望を述べる。